



第22回 山口大学おもしろプロジェクト 5月



2017年度おもしろプロジェクトの決定

第22回おもしろプロジェクト'17のプロジェクトが決定しました。いずれもユニークにあふれるプロジェクトです。これからの1年間、しっかりとプロジェクトを遂行し、有意義な大学生活の一助としてもらえれば幸いです。これらのプロジェクトは学内でも様々なイベントを行なうこととなります。おもしろプロジェクトをしていない学生の皆様も、そうしたイベントに参加することで、「おもプロ」に触れていただければと思います。また現在第二期募集中であり、さらにプロジェクトが増えることになると思われます。第二期の採択結果は後日お知らせいたします。

【通常】CodeOrange～Save Life～

私たちCodeOrangeは、山口県内における心肺蘇生法を目的とするサークルで、学生・一般の人たちに心肺蘇生法の講習会を開いている。今年度は、更なるメンバー教育の充実や、これまで以上に地域に根差した活動を目指すことを重点に置く。今年度は新たに、山口大学本学や、地域のイベントでBLSを含むファーストエイド講習会を開催することを予定している。BLS講習会の開催や、ボランティア活動を通して、山口県内における心肺蘇生法の普及並びに救命率の向上を目指す。

【通常】ICT救急改革～救急搬送支援システムで救命率向上を目指すプロジェクト～

本プロジェクトは、救急搬送支援システムを開発し地域自治体に導入してもらうことで、地域の救急医療資源を有効活用し、救命率の向上を目指すプロジェクトである。プロジェクト初年度となった昨年度は、システムのベースとなるインターフェイスやサーバーの構築を行った上で、宇部市および宇部・山陽小野田消防本部に対してデモンストラーションを行い、導入に向けた関係性構築を図った。プロジェクト2年目となる本年度は、以下の3点を目標として活動を行いたいと思っている。1.重症度判定システムの開発・既存システムへの組み込み、2.他自治体で導入されている類似システム運用状況の視察（佐賀県、さがネット）、3.地域自治体とのさらなる関係強化。

【通常】スベ研

山口大学宇宙開発プロジェクトは、cansatやロケットの製作などのものづくりを通して宇宙開発を行うことで、学生の宇宙への興味を実現させていく活動です。同プロジェクトは昨年度で3年目となります。今年度は大きく分けて3つのプロジェクトを進めていきます。モデルロケット、cansat、ハイブリッドロケットの製作です。モデルロケット製作では昨年度の課題を発見しより正確に飛行する機体を作ります。缶サットでは新たにプログラミングの勉強会を企画し基礎知識を蓄えようとして機体の製作を行います。ハイブリッドロケットでは燃焼試験を目標に基礎知識を蓄えていきます。cansatとモデルロケットについては3月に開催される種子島ロケットコンテストに出場し、各部門で良い成績を目指します。コンテストでは他大学の学生と交流し、互いに技術を吸収し合い、我々のものづくりを発信していきたいです。この3つのプロジェクトを中心に活動し、モノづくりの技術を磨き、全国の学生に発信することを目的としています。

【通常】家庭医療べんきょう会～地域医療を山口大学から発信する～

医学生・看護学生が、離島やへき地で、フィールドワークやインタビュー、交流会などを通して持続的に地域に関わることで、健康寿命の延伸や地域の活性化を担うこと、また、山口県で圧倒的に不足する、在宅医療の現場やへき地医療の現場での実習を行い、地域医療を担う医学生や看護学生のロールモデルの確立や地域で活躍する現役の医療従事者から学ぶことを目的とする。そのために、地域医療・介護・福祉に携わる方々のもとでの実習を行うこと、エキスパート講師の招聘による知識の向上、継続的な地域への健康づくりへの参画を行う。これらの活動を通して将来目標とすべき医師像・看護師像を描き、自主的な課題・目標を設定して有意義な学生生活を送る。そして、卒業後も明確な目的を有した医療従事者を育み、山口県の地域医療の裾野の拡大に貢献できるものとなる。

【通常】電脳飛行

平成29年9月に開催される、「第13回全日本学生室内飛行ロボットコンテスト」に出場して上位入賞を目指す。飛行ロボットの設計や製作をして、飛行練習などに取り組むことで工学への理解を深めるだけでなく、通常の授業では経験できない、ものづくりの難しさを学ぶ。オープンキャンパス等のイベントにも参加して、多くの方々に大学の活動の一つとして「電脳飛行」を知ってもらい、ものづくりの面白さや楽しさを伝える。

【light】まぎちゃんと竹であそぼう

学校にある必要とされていない竹を何とか利用できないかと考えました。このプロジェクトでは大きく2つのことを予定しています。1つ目は、竹箸づくりを通じて、留学生や地域の人と交流をはかり一緒に、ものづくりの楽しさを学びます。また、環境について考えてもらうため要らないものを必要なものに変化させることや、箸で食事をとる日本の文化・マナーについて体験してもらいます。2つ目は、竹を加工して彫刻を施せたらと考えています。竹のもつ質や魅力を実際に触れて引き出していきたいです。

【light】いろいろ

学生同士で分け隔てなく交流できる場は少なく、自己表現をする機会もあまりない。そこで、作品を通じた交流の機会を提供したいと考えた。テーマを話し合いで決め、1週間テーマに沿った写真を各自で撮影し、それをもとに交流を行う。写真があることで、話題には困らず、初対面であっても交流しやすい。写真という手軽さから自己表現もしやすいのではないかと考える。撮った写真は1週間ホワイトボードに掲示し、その後フォトブックを作成する。自己表現として撮った写真がひとつの「作品」として丁寧に扱われる喜びや、表現の楽しさを参加者に感じてもらいたい。

【light】召しませ、忍者飯！

『忍者』や『武士』は日本の文化を代表するものの一つであり、その存在は世界でもよく知られています。そんな忍者や武士の携帯食として有名な『兵糧丸（ひょうろうがん）』を実際につくって食べ、当時の食文化に対する理解を深めるために『兵糧丸調理・実食会』を開くことを考えています。兵糧丸を食べてみたい歴史好きな方や、日本の食品保存技術に興味がある方に実際に「つくって食べる」機会を提供します。また、現在のような食品保存技術のなかった時代の食品に触れ、いつも新鮮で美味しいものが食べられる生活環境について考えるきっかけをつくるような調理・実食会を目指します。学内で希望者を募り、10～20人ほどの定員で『兵糧丸調理・実食会』を一度行い、実食の後に「現代の保存技術の愚恵とそれがもたらした生活の変化」をテーマに3～4人でのグループディスカッションと全体での発表を行います。

【テーマ】いろいろ～てまりでつながろう～

本プロジェクトの目的は、「加賀手鞠」を作ること、見ることを通じて、日本伝統の文化を身近に知るきっかけを作り、「手芸」というツールによって、コミュニティの形成を図り、交友関係を深めていくことである。この目的を達成するために、以下のことを計画している。まず、1年を通して週に1度の加賀手鞠制作のワークショップを行う。次に、春・秋の年2回、夏季休業時の短期留学生に向けて作品の展示・紹介をする。また、地域の針供養などの伝統行事への参加を予定している。

**おもしろプロジェクトに関するお問い合わせは
自主活動ルームにて受け付けています**